山田町立山田中学校の学力向上への取組

１　学校の概要

本校は，豊かな自然に囲まれた農村地域にある中規模校で，全校生徒 275 名（10 クラス），教職員 27 名である。また，町内唯一の中学校であることから，保護者や地域住民の学校教育に対する関心は高く，「文教の町」としての誇りを，今なお留めている。

２　生徒の実態

生徒たちは，町内３つの小学校校区から通学しており，牧歌的な雰囲気の中で素朴かつ大らかに育ち，生徒指導上顕著な問題はない。しかし学習面では，２年間の研究により改善されつつあり，17 年度，中学２学年の学力調査では県平均を上回っている。しかし，家庭学習の習慣が身に付いていない生徒や学習に対し目的意識や主体性に欠ける生徒がみられる。また，基礎・基本の定着も個人差があるのが現状である。

３　学力向上に向けた経営方針

平成 15 年度より，本校は「学力向上フロンティアスクール」の指定を受け，学力向上への取組について研究してきた。本年度はその研究のまとめの年にあたり，昨年度までの研究の流れを受け，さらに指導法の工夫・改善等を行っていきたいと考えている。具体的には，まず昨年までの研究をもとに，各研究班の研究内容を整理した。その結果，学習指導研究班では，「分かる授業」を目指した評価の在り方と小・中連携による授業の在り方を柱として研究を進めることにした。また，学習支援研究班では，アンケートの実施・分析をもとに，さらに家庭学習や特別活動が充実するよう研究を進めることにした。今年度は，このような研究全体を通して，今まで以上に生徒の主体的な活動を促す必要があると考え，研究主題を「適切な教育課程の編成・実施・評価及び特色ある教育活動の推進」，副題を「確かな学力の定着を目指して」として研究を推進することにした。

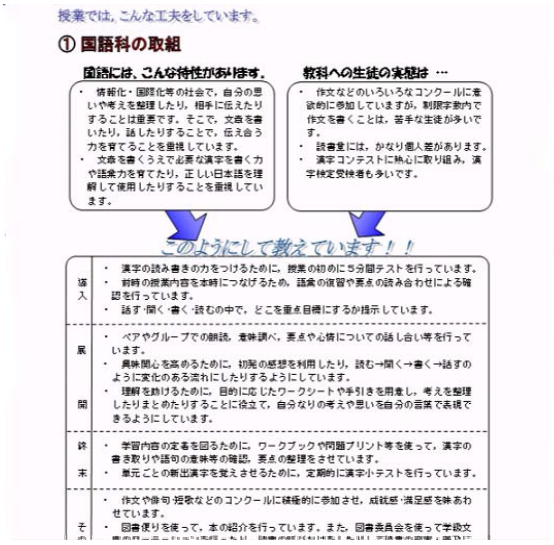
４　教育課程内の取組

(1)　授業及び教育課程の工夫

①　各教科における学力向上対策

ア　各教科の取組の見直しと実践

昨年まで，各教科ごとに「導入」「展開「終末」「その他」の項目で，教科の特性をふまえ，学力向上の視点から工夫・改善すべきことを整理した。本年度も継続するとともに，主体性を促すため，ペア学習やグループ学習などの学習形態の工夫を行っている。



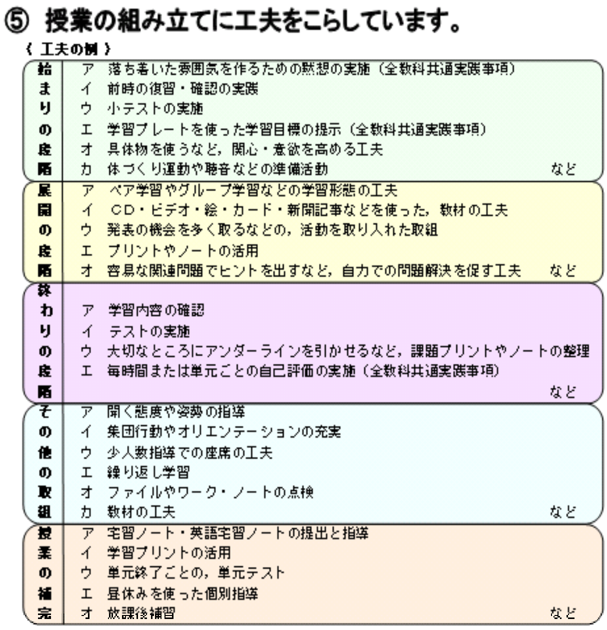
資料１　各教科の取組（国語科）

イ　生徒による自己評価，相互評価

学力の向上に向けて，各教科独自で自己評価表を作成してきたが，本年度評価項目を検討し，共通項目を決定した。また，ペア学習，グループ学習などの相互作用を重視した学習形態を導入している観点から相互評価についても同様に共通項目を決定した。

ウ　学習プレートの活用

問題解決的な学習の流れを基本とした授業構築をし，各教科の特性をふまえ，学習目標などを提示するための学習プレートを活用している。


⑤ 授業の組み立てに工夫をこらしています。

〈工夫の例〉

始まりの段階	ア　落ち着いた雰囲気を作るための黙想の実施（全教科共通実践事項） イ　前時の復習・確認の実践 ウ　小テストの実施 エ　学習プレートを使った学習目標の提示（全教科共通実践事項） オ　具体物を使うなど，関心・意欲を高める工夫 カ　体づくり運動や聴音などの準備活動　など
展開の段階	ア　ペア学習やグループ学習などの学習形態の工夫 イ　ＣＤ・ビデオ・絵・カード・新聞記事などを使った，教材の工夫 ウ　発表の機会を多く取るなどの，活動を取り入れた取組 エ　プリントやノートの活用 オ　容易な関連問題でヒントを出すなど，自力での問題解決を促す工夫　など
終わりの段階	ア　学習内容の確認 イ　テストの実施 ウ　大切なところにアンダーラインを引かせるなど，課題プリントやノートの整理 エ　毎時間または単元ごとの自己評価の実施（全教科共通実践事項）　など
その他の取組	ア　聞く態度や姿勢の指導 イ　集団行動やオリエンテーションの充実 ウ　少人数指導での座席の工夫 エ　繰り返し学習 オ　ファイルやワーク・ノートの点検 カ　教材の工夫　など
授業の補完	ア　宅習ノート・英語宅習ノートの提出と指導 イ　学習プリントの活用 ウ　単元終了ごとの，単元テスト エ　昼休みを使った個別指導 オ　放課後補習　など

資料２　授業の構築

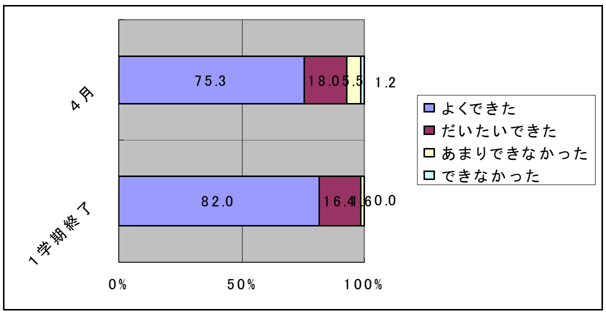
エ　小テストの実施

基礎・基本の徹底という視点から，「前時の復習」「本時の確認」の小テストを実施するようにしている。その結果をもとに，生徒への個別指導や授業改善・工夫に役立てている。

②　基本的な学習態度の確立

ア　授業開始時の黙想

全教科で共通実践を行っている。本年度１学期に実施したアンケート結果では，特に１年生に効果がみられた。



資料３　アンケート「授業開始時の黙想」

イ　２分前行動の実施

昨年度から，全教科で共通実践を行っている。学習態度育成週間には学習委員会が調査を行い，意識を高めている。

ウ　アンケートの実施と分析

本年度，生徒の定着状況を確認するため，学習面に関わるアンケートを実施し，分析を行った。その結果をもとに，班別研究会で改善点とその具体策を明確にし，全職員で共通理解のもと，学習態度の確立に努めている。

③　教育課程の工夫

ア　選択教科の工夫

生徒のニーズや実態に合わせて，１年生５教科５コース（１選択），２年生９教科９コース（２選択），３年生９教科 17 コース（４選択）を開設した。このことにより，生徒は，自分の興味・関心や習熟度に合わせた選択が可能になった。

イ　校時程の工夫

全体職朝と学年職朝との組み合わせることで朝自習に全職員が指導につけるよう工夫した。また，「職朝なし」の校時を実施して，各学校行事の準備，教育相談や個別指導の時間を設定することができるようにした。

(2)　小学校との連携

〇　数学科を中心とした指導法の工夫・改善

昨年度から中学校の数学科で問題を作成し，小学校の実態を分析して指導実践に役立てている。また，町教育研究会を中心として，各教科等で小中連携の視点で活動内容を検討している。

(3)　その他の取組

①　学習環境の整備

学びの標語を掲示したり，各教科の要点のまとめや生徒作品，各行事の写真等を掲示したりして，生徒の意識を高めた。

②　生徒会活動を通した取組

昨年度は，「学びの集会」を参観日とかねて実施し，学習に関する問題を取り上げ，講話を行った。本年度も実施の予定で，昨年度の反省から，生徒に主体性をもたせられるよう，学習委員会を中心に計画している。また，校内の掲示板に「学習コーナー」などを設置して，常に生徒が学習に触れられる環境づくりに努めた。

写真１　掲示の様子（学習コーナー）

写真２　学びの集会

5　教育課程外の取組

(1)　家庭学習の工夫

①　家庭との連携

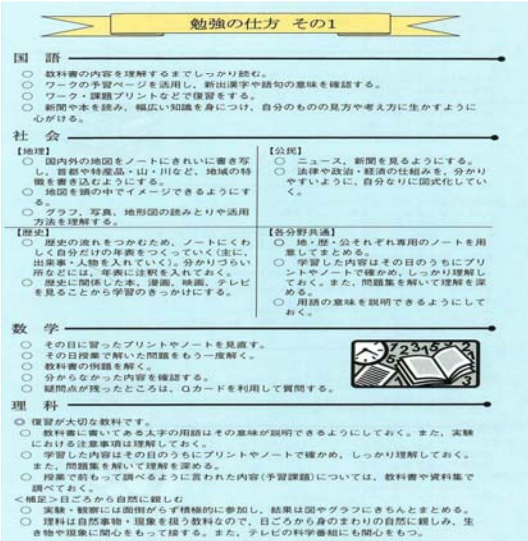
学習部だよりや学年・学級通信を活用し，テスト結果の分析や改善点などの資料を配付した。また，英語科通信を発行し親子で楽しく学習できるよう工夫した。

②　ガイダンス資料の活用及び宅習・英宅の指導

昨年度までに，ガイダンス資料を作成した。本年度は，ガイダンス資料の内容の改善を行った。また，宅習例などを配布し宅習のあり方について考えさせた。またファイルを活用させるため，ファイルの整理を徹底させている。

③　定期テストのやり直しの徹底

テスト反省表を作成し，定期テストの復習が充実するよう工夫している。



勉強の仕方　その1

国　語
○　教科書の内容を理解するまでしっかり読む。
○　ワークの予習ページを活用し，新出漢字や語句の意味を確認する。
○　ワーク・課題プリントなどで復習をする。
○　新聞や本を読み，幅広い知識を身につけ，自分のものの見方や考え方に生かすように心がける。

社　会
【地理】
○　国内外の地図をノートにきれいに書き写し，首都や特産品・山・川など，地域の特徴を書き込むようにする。
○　地図を頭の中でイメージできるようにする。
○　グラフ，写真，地形図の読みとりや活用方法を理解する。
【公民】
○　ニュース，新聞を見るようにする。
○　法律や政治・経済の仕組みを，分かりやすいように，自分なりに図式化していく。
【歴史】
○　歴史の流れをつかむため，ノートにくわしく自分だけの年表をつくっていく(主に，出来事・人物を入れていく)。分かりづらい所などには，年表に注釈を入れておく。
○　歴史に関係した本，漫画，映画，テレビを見ることから学習のきっかけにする。
【各分野共通】
○　地・歴・公それぞれ専用のノートを用意してまとめる。
○　学習した内容はその日のうちにプリントやノートで確かめ，しっかり理解しておく。また，問題集を解いて理解を深める。
○　用語の意味を説明できるようにしておく。

数　学
○　その日に習ったプリントやノートを見直す。
○　その日授業で解いた問題をもう一度解く。
○　教科書の例題を解く。
○　分からなかった内容を確認する。
○　疑問点が残ったところは，Qカードを利用して質問する。

理　科
○復習が大切な教科です。
○　教科書に書いてある太字の用語はその意味が説明できるようにしておく。また，実験における注意事項は理解しておく。
○　学習した内容はその日のうちにプリントやノートで確かめ，しっかり理解しておく。また，問題集を解いて理解を深める。
○　授業で前もって調べるように言われた内容(予習課題)については，教科書や資料集で調べておく。
<補足>日ごろから自然に親しむ
○　実験・観察には面倒がらず積極的に参加し，結果は図やグラフにきちんとまとめる。
○　理科は自然事物・現象を扱う教科なので，日ごろから身のまわりの自然に親しみ，生き物や現象に関心をもって接する。また，テレビの科学番組にも関心をもつ。

資料４　家庭学習のガイダンス資料

④　アンケートの実施と分析

１学期に，生徒用と保護者用の家庭学習アンケートを実施した。今後，分析をもとに学習部だより等の内容を充実させていく。また，再度アンケートを実施し変容を確認する。

(2)　各種コンクールへの出展，各種検定への積極的な受験

いろいろな教育関係団体が主催する作文や俳句，絵画などのコンクールに積極的に出展させ数多くの入賞者を出した。また，英語検定や漢字検定などにも積極的に受験することを促した。

(3)　長期休業を利用した補充学習と図書室開放

夏休みに３年生を対象に，セミナー形式で４日間補充学習を行った。また，図書室を開放して，生徒が自由に活用できるようにした。また，生徒への個別指導ができるように職員研修の時間帯の設定も工夫した。

６　保護者・家庭，地域との連携

(1)　学校評価，授業評価の実施

保護者や地域の方に学校行事や授業を公開して，学校評価や授業評価を導入している。その結果をもとに，学校の取組や授業のあり方について，再考している。

(2)　学校評議委員や民生委員児童委員，各公民館長との懇談会の実施

懇談会を通して，地域での生徒の様子や学校での生徒の様子を情報交換することができ，地域をあげて生徒を支援する体制が整いつつある。

(3)　学校からの便りの発行

学校便りや学年・学級通信を定期的に発行しているので,保護者や地域の方から好評である。また，前述したように，英語科通信等も発行され，家庭での話題源にもなっている。

７　成果と課題（次年度の取組を含む）

(1)　研究の成果

①　保護者・地域の方に授業を公開し，評価する機会を設定したことから，教師の授業改善の意識が高まった。

②　基本的な学習態度が向上し，どの教科の授業にも積極的に取り組むようになった。

③　小テストなどの形成的評価と個別指導が一体化され，基礎・基本の徹底が各教科で行われるようになった。

④　家庭学習についてのガイダンス資料の活用や宅習ノート・英宅・漢宅ノートの提出の徹底，通信等の発行により，生徒・保護者の意識の高揚がみられるようになった。

⑤　学力向上を意識した生徒会の取組が活発になった。また，各検定の受験者数・合格者数が増えた。

(2)　今後の課題

①　授業改善のために保護者や地域の方に授業を公開し，評価する機会を増やす必要がある。

②　生徒同士が相互作用をしながら，主体的に知を構築していく手立てをさらに研究していく必要がある。

③　形成的評価を中心とした評価の研究を，更に行っていく必要がある。

④　家庭学習の習慣化を図る手立てを工夫・改善する必要がある。

⑤　保護者や地域，小学校などとの連携を一層深め，生徒の学力向上を支援するシステムの構築が必要である。